

北海道開発局、東北地方整備局、関東地方整備局、
北陸地方整備局、中部地方整備局、近畿地方整備局、
中国地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局、
沖縄総合事務局 同時発表

平成29年4月25日
道路局道路交通管理課
自動車局技術政策課

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

平成29年度実証実験の地域選定及び公募開始について

今年夏頃からの実験開始に向け、技術的な検証を行うための道の駅5箇所を選定しました。また、ビジネスモデルを検討するための道の駅等5箇所について、本日より公募を開始します。

国土交通省では、超高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、道の駅など地域の拠点を核とする自動運転サービスの導入を目指し、今年夏頃より、全国10箇所を実証実験を開始する予定です。

今回、実験環境や拠点性等を踏まえ、主に技術的な検証を速やかに実施するための道の駅5箇所(地域指定型)を選定しました。また、主にビジネスモデルの検討を行うための道の駅等5箇所(公募型)についても、本日より公募を開始します。

1. 「地域指定型」の実証実験箇所(今回選定)

- ① 道の駅「かみこあに」(秋田県北秋田郡上小阿仁村)
きたあきたぐんかみこあにむら
- ② 道の駅「にしかた」(栃木県栃木市西方町)
とちぎしにしかたまち
- ③ 道の駅「奥永源寺溪流の里」(滋賀県東近江市蓼畑町)
おくえいげんじけいりゅうさと ひがしおうみしたてはたちよう
- ④ 道の駅「赤来高原」(島根県飯石郡飯南町)
あかぎこうげん いいしぐんいなんちょう
- ⑤ 道の駅「芦北でこぼん」(熊本県葦北郡芦北町)
あしきた あしきたぐんあしきたまち

2. 「公募型」の実証実験の公募概要

- (1) 受付期間:平成29年4月25日(火)～5月25日(木)
- (2) 応募主体:中山間地域の市町村(もしくは都道府県)
- (3) 企画提案:地域課題、将来のサービス、今回の実験内容、協力体制 等
- (4) 選定箇所数:5箇所

(今回選定した箇所以外の地域にも配慮しながら、有識者の意見を踏まえて7月頃に選定予定)

○ 公募要領の詳細は、以下のHPをご確認下さい。

<http://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/topic/20170425kobo.html>

※本実験は、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)のプロジェクトの1つとして実施するものです。

問い合わせ先

国土交通省 道路局道路交通管理課 ITS推進室 手塚・宮永(内線:37453、37462)
(代表)TEL:03-5253-8111 (課直通)TEL:03-5253-8484 FAX:03-5253-1617

※ 主に技術的な検証を行う箇所



中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験
実証実験地域の公募について【概要】

1. 公募目的・応募主体等

- (1) 公募目的: 主にビジネスモデルの検討に資する道の駅等の地域拠点を選定
- (2) 応募主体: 中山間地域の市町村(もしくは都道府県)
- (3) 受付期間: 平成29年4月25日(火)～5月25日(木)

2. 企画提案内容

① 地域の課題	<ul style="list-style-type: none">○ 自動運転サービスを通じて解決を図る地域の課題について記載<ul style="list-style-type: none">・ 生活の足の確保(買物・病院、公共サービス等) ・ 物流の確保(宅配便・農産物の集出荷等)・ 地域の活性化(観光・働く場の創造等) 等
② 将来のサービス内容	<ul style="list-style-type: none">○ 地域課題に対応した将来のサービス内容の案を記載<ul style="list-style-type: none">・ 道の駅等の地域の拠点を核とした自動運転車両の活用方法など具体的なサービスイメージ・ 自動運転サービスの運営方法、運営主体などの想定される将来のビジネスモデル・ 想定している社会実装に向けたロードマップ
③ 今回の実験内容	<ul style="list-style-type: none">○ 今回の実証実験における走行ルート案や実証実験を通じた検証内容・方法を記載<ul style="list-style-type: none">・ 走行距離は概ね4～5km程度(一部又は全部の区間で交通規制等による専用空間の構築が可能であること)・ 地域の課題解決への効果を検証する方法(高齢者の外出の増加、農作物の集出荷の拡大等に関する可能な限り定量的な効果検証を実施)
④ 協力体制	<ul style="list-style-type: none">○ 実証実験において連携が見込まれる関係機関や社会実装に向けての地域の協力体制について記載<ul style="list-style-type: none">・ 道路管理者、警察、公共交通事業者、物流事業者、農林商工関係者、地域住民団体 等

3. 評価基準

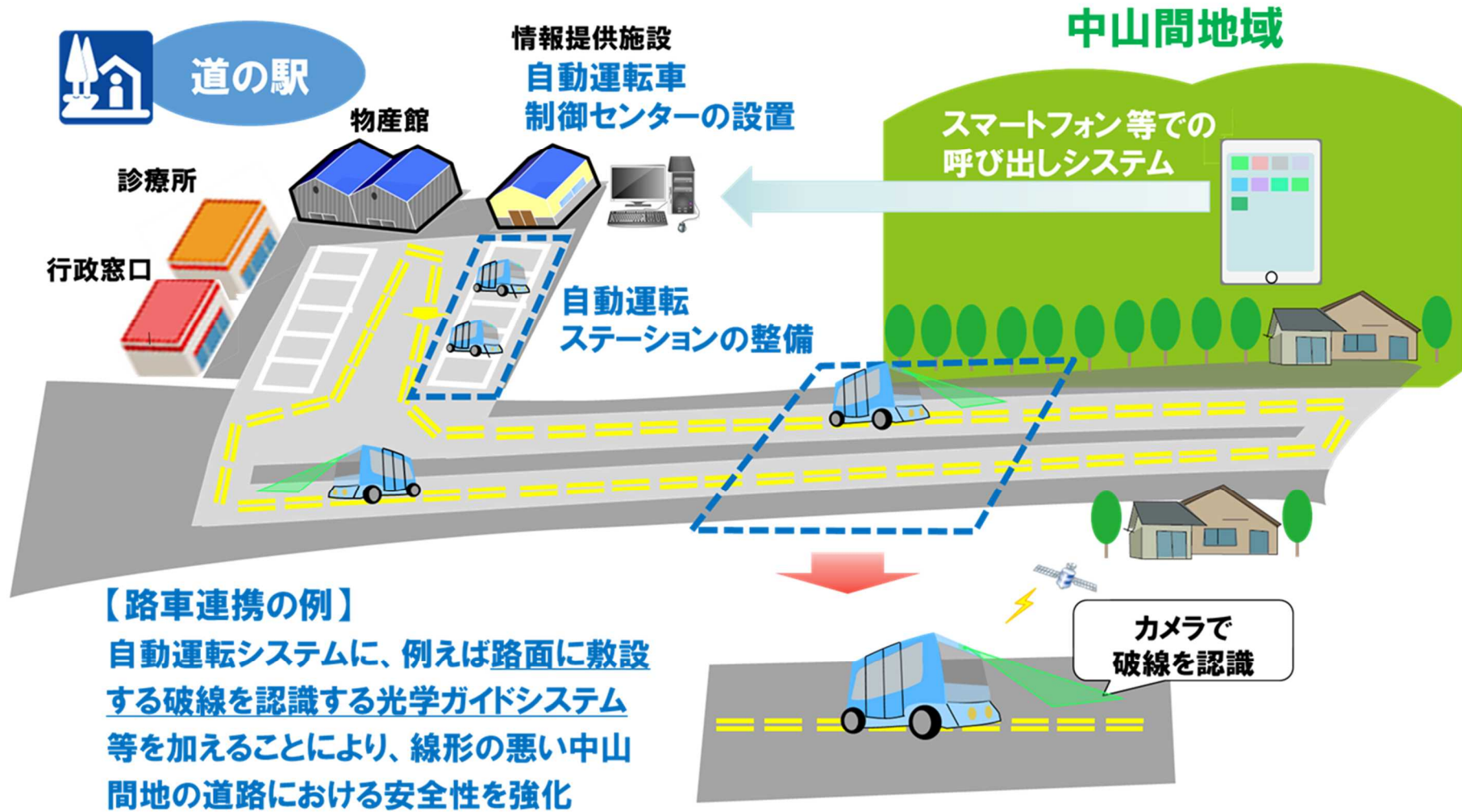
① 的確性	<ul style="list-style-type: none">・ 応募の内容が、自動運転サービスの社会実装に向けた実証実験の趣旨に合致し、地域の課題解決に対する寄与が見込まれること。
② 実行性	<ul style="list-style-type: none">・ 実証実験を行うにあたり、実施に向けた関係機関との連携体制が既に構築されている、又は連携体制の構築が見込まれること。
③ 具体性	<ul style="list-style-type: none">・ 自動運転サービスの導入に向けたイメージ、将来のビジネスモデル、それらの検証方法が具体的に示されていること。
④ 継続性	<ul style="list-style-type: none">・ 実証実験後も、自動運転サービスの社会実装に向けた取組みが、応募主体を中心に、サービス事業者等の関係者と連携しながら、継続的に実施される見込みがあること。
⑤ 地域の受容性	<ul style="list-style-type: none">・ 実証実験後も、自動運転サービスの社会実装に向けて、地域の合意形成が図られる見込みがあること。
⑥ その他	<ul style="list-style-type: none">・ その他、公募要領及び平成29年度実証実験計画の内容に合致していること。

4. 今後の予定

7月頃 道の駅等の地域拠点5箇所を選定

(今回選定した箇所以外の地域にも配慮しながら、有識者の意見を踏まえて選定する予定)

● 超高齢化等が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



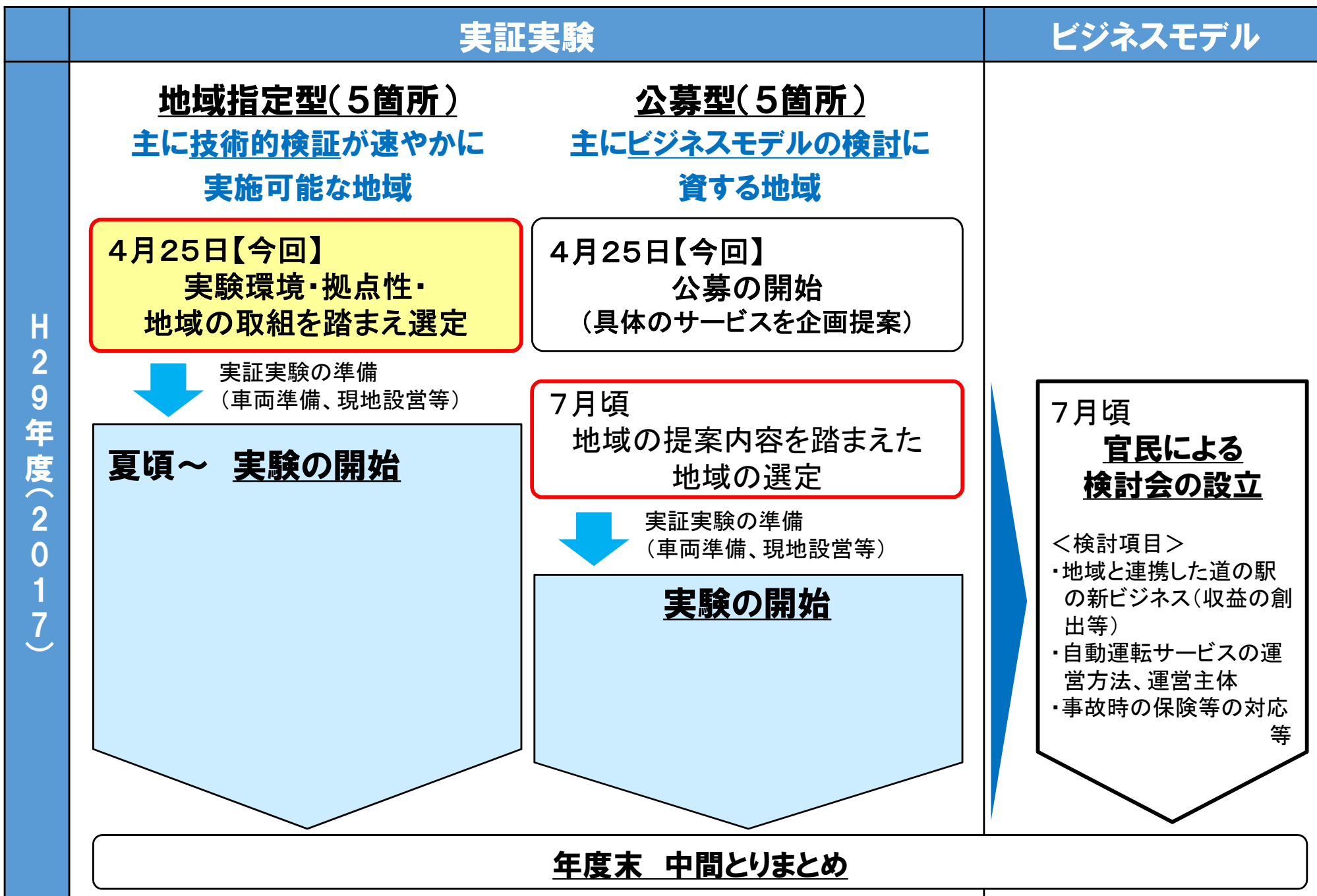
物流の確保
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化
(観光・働く場の創造等)

今年夏頃から全国約10箇所で実験開始予定



- 期間内(2月24日(金)~3月7日(火))に応募のあった実験車両協力者について、走行実績等の審査を行い、以下の4者を選定 ※ 上記期間以降も応募を受け付けており、随時審査を行う

バスタイプ	乗用車タイプ
<p>①株式会社ディー・エヌ・エー</p>  <p>「レベル4」(専用空間) 「車両自律型」技術 (GPS、IMUにより自車位置を特定し、規定のルート进行 (点群データを事前取得))</p> <p>定員: 6人(着席) (立席含め10名程度) 速度: 10km/h程度 (最大:40km/h)</p>	<p>③ヤマハ発動機株式会社</p>  <p>「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道)) 「路車連携型」技術 (埋設された電磁誘導線からの磁力を感知して、既定ルートを走行)</p> <p>定員: 4~6人程度 速度: 自動時 ~12km/h 程度 手動時 20 km/h未満</p>
<p>②先進モビリティ株式会社</p>  <p>※写真は車両のイメージ※</p> <p>「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道)) 「路車連携型」技術 (GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサにより自車位置を特定して、既定のルートを走行)</p> <p>定員: 20人 速度[※]: 35 km/h 程度 (最大40 km/h)</p>	<p>④アイサンテクノロジー株式会社</p>  <p>「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道)) 「車両自律型」技術 (事前に作製した高精度3次元地図を用い、LIDARで周囲を検知しながら規定ルートを走行)</p> <p>定員: 4人 速度[※]: 40km/h 程度 (最大50 km/h)</p>

GPS : Global Positioning System, 全地球測位システム
IMU : Inertial Measurement Unit, 慣性計測装置

※速度は走行する道路に応じた制限速度に適応